

青少年むらやま

第37号
2021年
令和3年10月1日

提言



茶花

東根市青少年育成市民会議 会長

元木 行彦

新型コロナウイルスの感染急増で、もはや「災害」といわれる状況となっております。昨年来、青少年育成関係のイベントや研修会は中止や延期又は縮小しての開催と、協議会の皆様も並々ならぬご苦労をなされていと存じます。

社会はリモートワークに、学校はGIGAスクール構想により一人一台端末が配布されオンライン授業が行われる等、子供たちを取り巻く環境は激変しました。

これまでも、ネットやSNSでの「いじめ」や「犯罪被害」等問題になっていきますが、ネット社会への流れが加速した事により、過激化また増加する懸念があります。

今の高校生はTVではなくYouTubeを見て、調べものは携帯で行っていると言います。つまり情報は自分の興味のあるものだけを選ぶ偏った環境に陥りやすいと言えます。

しかし、青少年が成長するには人との出会いや実体験が何よりも重要と考えます。先日、知人のお宅をお伺いしたところ玄関の正面に花が生けてあり、その花の素朴

でありながら凛とした姿に、私は「綺麗ですね。」と、思わず言っていました。

奥様は「今日は、お茶の稽古でしたので『茶花』を飾っています。茶室にもあります。」と述べ、茶室の花も持ち帰してくれました。

そして「玄関にある花とこの花は、全て庭にある花です。」と述べられ、私は庭では気付かなかつた花と同じと知り、周りの環境で同じ花でもこうにも違うことに驚きました。

この日は『茶花』を知り、如何に自分が上辺だけ見ているかを教えられ、そして、学ぶ機会が色んな処にあると気付かされました。

青少年は、様々な場所で大くさんの経験を積みむ事により新しい価値観や生き方を学び成長すると思います。

今後とも青少年への被害を防ぐため啓蒙と声かけ運動や巡回等の地道な活動を続け、また時代に即した活動を模索し、青少年が安全に色んな経験を積み、花開く環境になるよう努めたいと思います。



茶花



床の間

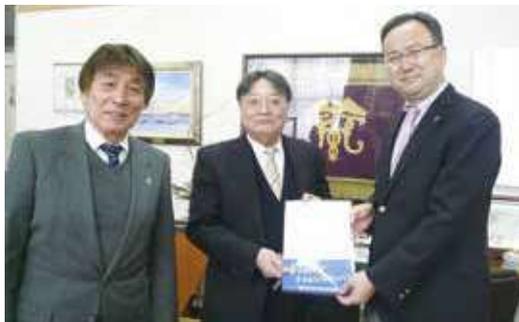
山形市

青少年育成市民会議の活動

山形市青少年育成市民会議では、毎年様々な事業を実施しています。5月には自転車マナーアップ啓発活動として、高校生と一緒に山形駅前前で啓発物品を配り、安全な自転車の乗り方を呼び掛けています。12月には「親子ふれあいのつどい」を開催しています。これは、家族との交流や明るい家庭づくりを促進するため、親子で一緒にもの作りをしたり、作ったもので遊ぶ企画です。その他にも、スマホマナーアップ活動、青少年の善行表彰事業などを例年実施しています。

これらの事業の多くは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、令和2年度は、コロナ禍における学校生活への応援を込めて、山形市内の高校に通学する生徒に対し、市民会議からのメッセージ入りのクリアファイルを作成・配布しました。感染症への不安の中、臨時休校や学校行事の中止など、子どもたちは経験したことのない様々な困難を強いられています。「夢さ向がてチャレンジすっべー!」と書かれたクリアファイルを作成し、高校生の皆さんが少しでも前向きな気持ちになれるよう、各学校を訪問して配布しました。

また、青少年の善行表彰事業として、よい行いをした青少年の学校を訪問し、表彰状の授与等を行いました。



河北町

未成年者の飲酒・喫煙お断り運動

河北町青少年育成町民会議では、健全な青少年を育むよりよい地域環境づくりを目的として、例年、毎年7月に行われる「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に合わせ、町内の飲食店とコンビニを訪問し、未成年者へ酒類やタバコを提供することのないように協力を呼びかける「未成年者飲酒・喫煙お断り運動」を行っています。



しかし、昨年度については、新型コロナウイルス感染症や7月末に発生した豪雨災害の影響もあり、活動を行うことができず、今年度についても、活動ができるかどうか難しい判断となりましたが、可能な範囲で活動を行っていくという思いのもと、規模を縮小しながらも、コンビニへの訪問を行うことができました。

実際に店舗に向き、活動を行えたことも勿論ですが、コロナ禍で思うように活動ができない中、町民会議の委員皆様が顔を合わせて活動を行うことができたという点でより有意義な活動となりました。昨年度同様、今年度も様々な活動に制限がかかっている状況ですが、町民の皆様と協力しながら、健全な青少年を育むよりよい地域環境づくりのため活動を継続していきます。

西川町

「くれよん」を引き継ぐ
「Color's(カラーズ)」の活動
〜オリンピック聖火リレーでの活躍〜

中学生ボランティアサークル「color's(カラーズ)」の活動は、ボランティアサークル「くれよん」を引き継ぐ形で立ち上がり、今年で3年目に入ります。「color's」という名前には、「一人一人が個性の色で輝き、色あせることなく長く活動を続けていきたい。」という願いが込められています。

「color's」は、令和3年6月6日〜7日に、西川町を出発の地として実施された、山形県内を巡る「東京2020オリンピック」聖火リレーにおいて、出発式及び到着式の会場ボランティアとして参加しました。入場者受付での入場証の確認や体温測定、沿道での警備等に一般のボランティアの方々と一緒になって取り組み、しっかりと役割を果たしてくれました。

コロナ禍において、活動が制限される中ではありますが、聖火リレーでの貴重な経験を生かし、今後も、できることに積極的に取り組んでいきたいと思っています。



大石田町

コロナ禍に実施した「あいさつ運動」「下校時パトロール」

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、計画していた行事の大半を中止せざるを得ない状況となりました。当町の青少年健全育成活動を町内外にアピールする主要なイベントである「青少年健全育成町民集会」はやむなく中止となりました。そのような中で、感染拡大につながらないと思われる「人が密にならない事業」①大石田中学校における登校時「さわやかあいさつ運動」、②各小中学校における「下校時安全パトロール」、③各小中学生を対象に行ったやまがた県民運動の一環である「いじめ・非行防止標語募集」事業については実施することができました。ただ、例年町民集会で行ってきた優秀標語の表彰は、残念ながら各学校において対応していたことができず、残念な結果となりました。



コロナ禍により一斉休校やステイホームを余儀なくされた状況下で、集団活動は制限され、個別活動が優先されるといえる意味イベントな社会生活は青少年健全育成活動にとってマイナス的な面が非常に多いと思われませんが、とりわけ「あいさつ運動」や「下校時パトロール」活動は子ども達の顔や様子をじかに見ることができる絶好の機会となり大変有意義な活動となりました。

先に開催された山形県青少年育成県民会議において、二つの県民運動が総合推進事業として決議されました。

いじめ・非行をなくそう

やまがた県民運動

〇主要事業

1 県民運動重点期間

七月・八月及び十一月を重点運動期間と定め、各地区青少年育成連絡協議会の主導のもと、いじめ・非行をなくするための環境づくり、街頭運動、啓発活動など地域の実情に応じた運動を展開する。

2 県民運動の要点

- (1) 小中学校及び特別支援学校の児童生徒を対象
 - ① いじめの根絶に向けた標語の募集と優秀作の選抜
 - (2) 高等学校生徒対象
 - ① 高校生徒会によるスローガン・ポスター等の作成
 - ② 地域の大人と協働したいじめ・非行防止の取り組みの推進
- (3) 地域における運動の展開
 - ① 「児童・生徒と地域の大人の対話会」の開催
 - ② 地域の実情に応じた取り組みの推進
- (4) インターネット利用に関する研修会の開催

3 山形県青少年健全育成県民大会

- (1) いじめ・非行をなくそう やまがた県民運動の一層の推進を確認するとともに、優秀標語の表彰を開催する。
- (2) 青少年育成に取り組む実践者同士が、今後の活動に向けた課題解決に結びつけるための、「いじめ・非行防止セミナー（仮称）」を開催する。

4 各種広報媒体・グッズによる啓発活動

- (1) 広報誌「見守る目・育む芽」により、県民運動の目的、実施、内容等の周知を図る。
- (2) シンボルマークの缶バッジ、啓発マグネットシート、横断幕等の啓発媒体を活用し、地域における普及啓発を一層強化する。

大人が変われば子どもも変わる

やまがた県民運動

〇県民運動三つの柱

1 あいさつ・見守り運動 ～子どもを家庭・地域で育てよう～
 〈内容〉

- ◇ オアシス運動を行う
- ◇ コミュニケーションを深める
- ◇ あいさつ・会話をし、地域行事への参加等
- ◇ 見守る

表情や態度に気を配る、認める、ほめる、ときに励ます、注意指導する等

2 モラル・マナーの向上運動

- ◇ ゴミ・空き缶・吸い殻を捨てない・拾う・持ち帰る
- ◇ 交通ルール・マナーを守る
- ◇ 公共の場のマナーを守る

3 子どもを事故や犯罪等から守る運動

- ◇ 危険箇所や少年のたまり場等を点検し、安心・安全な場所に改善する
- ◇ 有害図書等を買わせない、有害広告等を地域から排除する運動を進める
- ◇ 酒類・タバコの未成年への販売禁止の徹底と飲食店での飲酒・喫煙の防止を働きかける
- ◇ 不健全な交友や犯罪に結びつくおそれのあるインターネット上のサイトやソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）、オンラインゲームの安易な利用を注意し、メディア活用ルールの周知を図る
- ◇ 違法薬物に関する正しい知識と、NOと言える勇氣を育むための啓発活動を進める
- ◇ 青少年を深夜（午後一時～午前四時）に外出させない、インターネットカフェやカラオケボックス等に立ち入らせないように働きかける
- ◇ 万引きを「しない・させない・見逃さない」環境づくりを推進する

所感



山辺町青少年育成推進員会
会長 村山 道雄

現在、少子化時代の中で、小学校、中学校の統合が進められています。なぜ、地域離れ・近代化・都市化へ向かうのか、時々考えます。道路も整備され、自動車性能も進み、通信も便利な世の中になっていきます。地域での生活が遅れているわけでもないと思いますが、「井の中の蛙大海を知らず」と、世の進歩の速さ・進化の中に、入ろうとしています。山形県下、年間をとおして「あいさつ声掛運動の輪を広げよう！」県民運動「大人が変われば、子どもも変わる」「いじめ・非行をなくそう」スローガンのもと、青少年育成活動が進められています。「ハイという素直な心」「すみませんという反省の心」「させて頂きますという奉仕の心」「おかげさまでという謙虚な心」「どうぞという譲る心」「いつも人を育てる親心」「ありがとうという感謝の心」を育てることが大切です。

大黒天（裕福の神）…大黒さまのお持ちの「ふくろ」は「福労」とも呼ばれています。苦労をいとわず、かたてでて、その積み重ねをためこむための「ふくろ」です。この「ふくろ」から心、身ともに裕福な人生が右手の打出の小槌を打ち振ることによってあふれ出します。大黒さまの右手の小槌は「怠け心」「よこしまな心」「弱い心」「邪悪な心」などを打ち振って人の迷いを晴らします。毘沙門天（勇氣の神）…母親の愛に対して、父親の慈悲愛だけでは、この人生の荒波をのり越えることはできません。金のよろいで魔をよせつけず、悪業煩惱を押さえつけ、清く、正しく、力強く生き抜く勇気がなくてはなりません。一家の柱のお父さん、一家一族守るため、この人生の激流に足を踏ん張り仁王立ち！父の慈悲

と母の愛、相互に相まって一家和葉の風が吹く。と昔より先人の教えに書かれています。（国立公園淡路島七福神「幸せのふるさと」の中より、「筆抜粋」）
明るい挨拶。日常の中のマナーが問われる時代です。自ら、人より先に挨拶をと思っても、実行がともなわない時があります。小学生から先に挨拶を受けることもあり、自分も返す行動に出ますけど・・・。どこの学校の児童だろうと感心いたしまし。しつけ教育がしっかりしている。見ならわなければと心に思うしだいです。いつの時代でもそうでしょうが、「二人自分が孤独の中に入る」考えを持つことがあります。人の和の中に、自分も話を聞く耳を持つ人間になってと、忍耐力、自己のガンバリを身につけなければと考えるものです。この進化する時代の中に、先人の教えもふまえて生さしましょう。

令和3年度 村山地区青少年育成連絡協議会役員体制

◆三役	会 長	伊藤 康則（山形市）
	副会長	菊地 元宏（寒河江市）
	副会長	上村 博芳（村山市）
◆推進員部会	部 会 長	岡野 守昭（山形市）
	副部会長	後藤 吉美（尾花沢市）
	副部会長	後藤 洋一（寒河江市）
	監 事	矢萩 茂（天童市）
	監 事	後藤 芳和（寒河江市）
	事務局	齋藤恵美子（課長）
	（子ども家庭支援課）	
	布宮 倫（課長補佐）	
	平田 詩歩（主事）	
	高橋 政吉（青少年専門員）	
	黒田 伸幸（青少年専門員）	

よろしくお願ひします 市町民会議会長・推進員会長	
山形市	伊藤 康則・岡野 守昭
上山市	堀川 栄助・山川 和夫
天童市	山本 信治・新関 知己
山辺町	長岡 均・村山 道雄
中山町	鈴木 政明・多田 英生
寒河江市	菊地 元宏・後藤 洋一
河北町	松田 正・林 智
西川町	伊藤 功・和賀 光
朝日町	遠藤 康男・鈴木 高光
大江町	富樫 是行・佐藤 勇一
村山市	上村 博芳
東根市	元木 行彦・片桐 弘雅
尾花沢市	笹原 晋一・後藤 吉美
大石町	五十嵐智志・鈴木 善巧

編集後記

◆1964年に日本で初めてオリンピックが開催されてから57年の歳月を経て、2021年7月23日（パラリンピックは8月24日）に新型コロナウイルスの影響で1年遅れとなってしまいました。再び東京で「東京2020オリンピック」が開催されました。新型コロナウイルスの観点では、開催そのものの賛否が話題となりましたが、この大会に向けて厳しい練習を積んできたアスリートにとって、無事に大会を終えることができたことは、大変素晴らしいことだと思います。特に日本選手の活躍（過去最高のメダル獲得数）は見事なものでした。心から賞賛いたします。そして、今後の更なる活躍を期待します。

◆ご多忙のところ、玉稿をお寄せいただいた提言の元木氏、所感の村山氏に感謝申し上げます。また、各市町から様々な取組みを紹介いただきました。ご寄稿に感謝いたします。